



# 図書館だより⑪

少し秋らしい風になってきましたね。みなさん、体調は崩さずに元気にしていますか？ 季節の変わり目には、しっかりと睡眠をとり、手洗いやうがいをして体調管理をしていきましょうね。今回の図書館だよりでは、鏡原フェスタウィークでの図書委員会の取組紹介と新しい本の紹介をします。次号は、11月の読書月間の取組を紹介する予定です。図書委員会で企画を色々考えていますので、お楽しみに♪

## \* 鏡原フェスタウィーク \*

10/21~10/27

図書委員会は『54字の物語』という本を参考に、展示部にて「54字の本紹介」をします。投票も行いますので、1番読みたかった作品に1票をお願いします！



54字の物語 54字の物語 怪 54字の物語 参 54字の物語 史(歴史) 54字の物語 ZOO(動物園) 54字の物語 (ホラー) 54字の百物語 旅する54字の物語 (47都道府県)

## \* 新しい本、入りました \*



シートン動物記、全巻入荷！読めば、物語に引き込まれます！このシリーズは、野生動物の物語というだけでなく、人間が自然と共生する生き方の提示になっています。「人間と動物は種がちがうだけで同じ」と語っていたシートンは、それぞれの生きる権利について真剣に考えていました。生きるとは自分をつくること。自然界に生きる野性動物の生き方、個性を感じ取って、自分自身の生き方や、今の日本の環境などを考えてほしいと願っています。



弱虫ペダル5 西尾維新 死物語 きらきら 鉤物菓子の作り方 都会の トム&ソーヤ 18 建築家に なりたい君へ 1 銭天堂の 公式 ガイドブック お金の しくみを知り かしこく扱う方法 ハーレー ダビッドソン 2021 カタログ



詩集

「叙情小曲集」

(乙女の本棚)



言にくいこと

はっきり言うにゃん



ダレン・シャン

前の話



世界の国

アリエナイ



世界の

「常識」図鑑



新シエーラ姫

の冒険



兇人邸の殺人

『屍人荘』3部



硝子の塔の殺人

知念実希人



サガンの言葉

クレスプリー伝説

生涯のテーマは「孤独」と「愛」

「やさしさのない人とは、相手ができないことを求める人です」「自立とは自分自身を見つめ、自分の立ち位置を理解することです」。『悲しみよこんにちは』のフランス人作家サガンによる孤独と愛の名言たち

31 cm

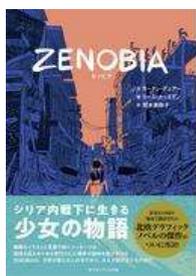
ヘアドネーションの今を伝え、未来につなぐ

寄附された髪の毛から作ったウィッグを、何らかの事情で髪に悩みを持つ子どもたちに無償で提供する活動「ヘアドネーション」。ヘアドネーションに関わる16名のインタビューを個性豊かなビジュアルとともに紹介する



ZENOBIA ゼノビア

シリア内戦の影が迫り、逃れるため少女はボートでの脱出を試みるが、荒波で船が転覆してしまう。暗い海の中、少女は村での出来事や、シリアの女王ゼノビアのことを思い出す…。北欧グラフィックノベル。



ほどよい距離で

つきあえるこじれないNOの伝え方

「ムリ!」と言えないこの空気、なんで? NOと言えない、断われない。それって性格のせいじゃない。小さなNOから変化は始まる。こじれない、こわれない、つぎにつながるNOのレッスン。



ひとりでもできるこころの手あて

「ひとりでもできる」ということは、「私には力がないのだ」と思い込まされているところから、「私」を信じる力をとりもどすことです。

世界のひきこもり

ひきこもり当事者である著者がネットを介して世界各国のひきこもりにインタビューした対談本です。ひきこもりは日本特有の話ではないことや、ひきこもりの人の考えもそれぞれあることがわかる一冊です。



だから死ぬ気で旅に出た

「運び屋」として、世界を股にかける片岡恭子。危険な目にあっても冷静な彼女だが、日本では精神を病んでいた。生きづらさを抱え、日本を脱出したひとりの女性が、「旅」によって生かされ魂をたくましく再生していくコミックエッセイ!



いっしょに帰ろう

保護猫カフェで出会った新しい家族の話

映画監督・犬童一心氏「保護猫カフェ——そこには愛と責任と楽しさが一緒にあって、そんな風に日々を過ごせたらというコツをいっぱい教えてもらった。世界がほんの少しずつ良くなっていく。心からそう思った」



マインドトーク

あなたと私の心の話

同性のパートナーと配信するYouTubeチャンネル「わがしChannel」のKANAとして人気の彼女が、悩みを抱えるすべての人たちとの対話を試みる。

世界でいちばん幸せな男

101歳、アウシュヴィッツ生存者が語る美しい人生の見つけ方 私はヒトラーさえも憎まない。アウシュヴィッツ他の強制収容所に送られ、家族を殺された著者が、壮絶な体験から導き出したのは希望だった。人間が持つ絶望の淵から立ち上がる力を全世界に訴える。



博士の愛した数式

「ぼくの記憶は80分しかもたない」記憶力を失った博士にとって、私は常に“新しい”家政婦。博士は“初対面”の私に、靴のサイズや誕生日を尋ねた。数字が博士の言葉だった。あまりに悲しく暖かい、奇跡の愛の物語。

